

「生薬の里 美郷」の実現に向けて



美 郷町では、生薬の原料となる薬用植物を栽培し、生薬メーカーへ提供する「生薬の里 美郷」構想の実現に向けた取り組みを進めています。

平成25年2月に公益社団法人東京生薬協会と連携協定を、株式会社龍角散と地域活性化包括連携協定を結んだ美郷町では、株式会社美郷の大地らとともに、平成25年6月に大台野試験区でカンゾウの試験栽培に着手しました。

試験栽培2年目にあたる今年度は、大台野試験区に隣接する町有地5アールに約500株のカンゾウを定植。昨年植えたカンゾウの生育状況を考慮し、マルチシートや化学肥料の有無などの条件を細かく分けて植え付けました。カンゾウは収穫するまで3年から4年程度かかるといわれており、今後も条件を変えながら、美郷町の土壌・気候等に適した栽培方法の確立を目指します。

また、今年度からはエイジツやキキョウ、コウボクの試験栽培も開始しました。さらに、生薬に興味を持っていただけるよう農家の方々を対象とした勉強会の開催も予定しています。



■定植したばかりのカンゾウ



■2年目を迎えたカンゾウ



■大台野試験区での試験栽培の様子

株式会社山崎帝國堂と連携合意を締結

このたび、東京生薬協会と連携協力を結ぶ「生薬の里 美郷」構想の実現を推進するため、美郷町と株式会社山崎帝國堂との連携合意締結式が行われました。同社の製品の原料には町が試験栽培するエイジツやコウボクが使用されています。今後は同社と協働し、生産・出荷体制の構築や生薬を活用した交流プログラムの作成などに取り組むこととなります。

6月18日に役場庁舎で開催された締結式では、松田町長、同社の竹内彪衛代表取締役社長、同協会の藤井隆太会長らが出席し、松田町長と竹内社長が合意書を取り交わしました。

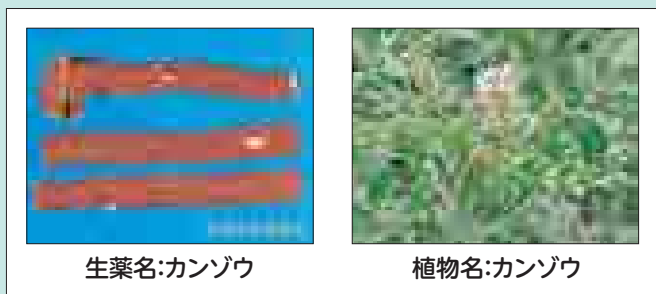
竹内社長は「薬は食品以上に原料の品質保証が必要。エイジツもコウボクも日本国内での調達には限界があるので、美郷町産の生薬を一日も早く消費者に届けたい」とあいさつ。藤井会長が「生薬の国産化構想のような取り組みは先読みが大切。今回のようにご縁が広がることは

大変心強く感じる」と続けると、松田町長は「農業生産は入口と出口をセットで確保できると、農家の方も安心して臨める。生産技術や流通経路を確立し、『生薬の里 美郷』の実現につなげたい」と応えました。



■写真左から松田町長と竹内社長

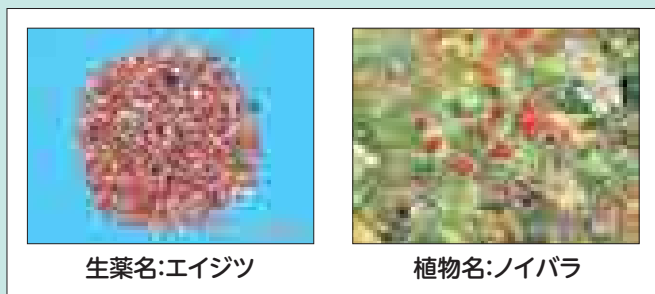
美郷町で試験栽培に取り組んでいる生薬



生薬名:カンゾウ

植物名:カンゾウ

根に薬効があるといわれ、諸症状を和らげる作用や喉の渇きを止める作用があり、およそ7割の漢方薬に配合される。生薬原料として収穫するまでには3年から4年程度を要する。



生薬名:エイジツ

植物名:ノイバラ

果実に薬効があるといわれ、利尿・下剤作用があり、^{かけ}脚気、腎臓病などにも用いられる。生薬原料として収穫するまでには2年から3年程度を要する。



生薬名:キキョウ

植物名:キキョウ

根に薬効があるといわれ、^{たん}痰や^{うみ}膿を除去する作用があり、漢方薬としてノドのはれや化^{かのう}膿などに用いられる。生薬原料として収穫するまでには2年から3年程度を要する。



生薬名:コウボク

植物名:ホオノキ

樹皮に薬効があるといわれ、胃や腸の働きを良くする作用があり、漢方薬として腹痛、便秘などに用いられる。生薬原料の成木になるには15年から20年程度を要する。

出典：公益社団法人東京生薬協会ホームページ 写真提供：昭和大学薬学部 磯田 進 先生

平場の森の整備工事を開始しました



旧千畑南小学校のグラウンド敷地を活用し、地域の憩いの場となる薬樹を中心とした公園「平場の森」の整備工事を開始しました。今年度は土壌改良や薬樹の植栽を予定しており、平成30年度までの5年間をかけてさまざまな薬樹の植栽に取り組んでいきます。